



「92歳のパリジェンヌ」

この映画はフランス元首相の母の実話から生まれた物語で、自分らしく生きぬくことの難しさ、素晴らしいさを感じさせてくれる機会を与えてくれます。

場面は92歳のマドレーヌが車を運転しているシーンから始まります。バイクの飛び出しに急ブレーキで難を逃れたものの、車は動かなくなり道をふさぎ、罵声を浴びせられます。車を降り、自分の誕生日を祝ってくれる家族に迎えられたマドレーヌは「今まで本当にありがとう、しあわせな人生だったわ」と感謝の言葉に続いで「2か月後の10月17日に私は逝きます…」と爆弾宣言。動揺する子どもたち。楽しいはずの誕生日パーティーが一転して暗くなってしま

1。10月29日から全国順次ロードショー。

美しい人生とは

ます。娘のディアヌは母を説得しようとか話を重ねるうちに、次第に母の生き方や強さに心を動かされて母の決断を認めていきます。しかし、息子のピエールは、大切な家族が一日でも長く生きていてほしいと、最後まで認めることができません。

日本でも人として生き、死にたいという当たり前のことが難しくなっています。孤独死が新聞の一角を占めることや、昔のように畳の上で大往生ともいわず、映画でも描かれています。病院で管を通され「生かされ、死んでいく」ことがどうなのか？「自分らしく生きる」ことを本当に考えさせられる作品です。



16mmフィルムがえいが

自分らしく生きる

美しい人生とは

池の周囲は2.6kmで遊歩道などがしっかり整備されています



行基測は池をつくるときに飲み水用につくられた

そして、久米田池交流資料館もあり、歴史の中で培われた人々の交流や久米田池にまつわる資料が展示されています。

古くから市民の憩いの場として親しまれている大阪府内最大の水面積を誇る久米田池は、2015年10月には世界かんがい施設遺産に登録されました。

世界かんがい施設遺産とは、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会（ICID）が認定し、日本では13か所（2016年9月現

在）となっています。大阪では岸和田市の久米田池と大阪狭山市の狭山池の2か所です。

久米田池の歴史は古く、奈良時代に水不足に苦しむ農民を助けるために聖武天皇の命を受け、行基が14年の歳月をかけて築造されたものと伝えられています。池の北西にある久米田寺は行基が池の保全管理を行わせるために創建したと言われていす。行基にかかわる伝承をはじめ、池の近隣には日照りで久米田池の水が枯れても、枯れなかったと伝えられている行基測跡もあります。

うちの近所コレイチ

わが町 自慢紹介

52



久米田池
岸和田市

奈良時代からの「水がめ」
世界かんがい施設遺産に登録

Culture Navi かるちやーなび

中・南河内地域 自治体学校

記念講演

「地方自治と まちづくり」

講師：中山 徹さん
(奈良女子大学教授)

歴史を積み重ねた「この地の今」を考える

～つくろう、市民と育む、みんなが輝くまちを～

11月12日（土）13時～16時30分

参加費 500円

会場 松原市城連寺コミュニティセンター
〒580-0031 松原市天美北1-347-4 ☎072-334-1570

連絡先 大阪自治体問題研究所 ☎06-6354-7220



心に響くこのひとこと

どの人にも何か
私が学べるところがある
そこでは私はその人の生徒だ
ハリール・ジブラン

1883年にレバノンで生まれた詩人であり、芸術家です。1895年にアメリカに移住し、宗教や哲学を根拠にした壮大な宇宙規模の詩や絵画などの作品を生み出し「20世紀のウィリアム・ブレイク」と称された人物です。特に1923年に発表された詩集「The Prophet（預言者）」は世界的に有名な作品となり、ビートルズの楽曲「ジュリア」（1968年）の歌詞にも引用されています。多くの人に影響を与えながらも1931年にニューヨークで亡くなりました。日本では「カリール・ジブラン」「カーリル・ギブラン」と表記されることもあります。

今月の 記念日

「きしめんの日」
10月26日

愛知県の名物「きしめん」をもっと多くの人に食べてもらおうと、愛知県名古屋市の「愛知県製麺工業協同組合」が制定しました。日付は食欲の秋である10月と、「きしめん」の特徴であるツルツル感を2（ツ）と6（ル）で表した26日の組み合わせからきています。「きしめん」の由来については、雉子肉を入れた「きじめん」がおりであるとか、名古屋で紀州出身者の者が作った「紀州めん」がなまったものとか、さまざまな説があります。平打ちうどんをいつ頃から「きしめん」と呼ぶようになったのかは明らかではありませんが、江戸末期の天保、嘉永のころには現在の姿の「きしめん」が生まれていたそうです。